

日本社会分析学会ニューズレター

2016年4号 [2016年11月18日発行]

発行：日本社会分析学会事務局
〒750-8511 下関市向洋町1-1-1
梅光学院大学 桑畑研究室内
編集責任者：桑畑 洋一郎(事務局長)

Tel:083-227-1000(梅光学院大学※代表)
E-mail: sasa@jsasa.org
ホームページ: <http://jsasa.org/>
郵便振替口座:01740-0-49579
(名義)日本社会分析学会

※第 132 回例会プログラムをお届けします。

●第 132 回研究例会のご案内

歓迎の言葉

稲月 正 (北九州市立大学)

このたび日本社会分析学会第 132 回例会を北九州市立大学で開催させていただくことになりました。カープの優勝ほど間をあいておりませんが、約 20 年ぶり、2 回目の開催となります。前回 (1997 年) は 7 月でしたので街中に鳴り響く小倉祇園太鼓が皆様を歓迎いたしました。今回は旬の魚介類はじめさまざまな小倉名物が街で皆様をお待ちしております。暮れのお忙しい時期ではありますが、ぜひ北九州にお越しください。

さて、簡単に開催校についてご紹介しておきましょう。本学は 5 学部・1 学群 (外国語学部、経済学部、文学部、法学部、国際環境工学部、地域創生学群)、基盤教育センター、地域戦略研究所などの附属機関、大学院課程 4 研究科 (法学研究科、社会システム研究科、国際環境工学研究科、マネジメント研究科) からなり、学生数は約 6,500 人です。1946 年 7 月に小倉外事専門学校として創立され、今年 70 周年を迎えました。市立大学という位置づけからか、地域社会との関係も強く、「きたきゅーだい」の名称で市民には認知されています。調査に行くと「私も卒業生です」とか「うちの子どもが通ってました」という方も結構おられます。話がスムーズにすすむので、ありがたいことです。

本学のある北九州市は、1963 年に旧 5 市 (門司、小倉、八幡、戸畑、若松) の合併により九州初の政令指定都市として誕生しました。ただ、人口は 1979 年の 106 万人をピークに減り続け、現在は 96 万人を割り込んでいます。2015 年国勢調査の報告によれば、前回調査時からの人口減少数が日本で最も多かったのが北九州市 (15,031 人) でした。高齢化率も政令市の中で最高です。ちなみに、21 大都市のうち人口増加率が最も高かったのは福岡市です。しかし、考えてみれば福岡市の方が「異常」なのであり、北九州市は、縮小しつつある日本の普遍的かつ先端 (の一つ) に位置する都市だと思います。そうした動きの中で縮小均衡社会への道筋を考えると、「暮らし」に軸足を置いた現状分析は不可欠です。本学会は、さまざまな対象と切り口でそれを提示してきました。今回の例会もそうした場になることを期待しています。

本学会の会員は、現在、私と今年入会した津村江美会員 (社会システム研究科博士課程) の 2 名のみで手薄感はありませんが、しっかりと準備をして皆様をお迎えしたいと思います。多くの会員の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

★ 第 132 回 日本社会分析学会例会プログラム ★

日程：2016 年 12 月 17 日（土）～18 日（日）

会場：北九州市立大学 北方キャンパス 本館

〒802-8577 福岡県北九州市小倉南区北方四丁目 2 番 1 号

（報告会場:D-301、会員控え室 D-302）

※持ち時間は **30 分**（報告 20 分：質疑 10 分）が標準です。レジュメや資料は 40 部程度ご準備ください。報告にてプロジェクター、PC が使えます。

※なお今回の例会に併せた形での編集委員会は開催しません。

12 月 17 日(土)

開 会 14:00

自由報告部会 I (14:05～16:05)

1. 「地域日本語教室の役割についてボランティアはどのように考えているのか」
津村 江美（北九州市立大学大学院）
2. 「精神障害者家族の困難と家族会の機能」
山口 万里子（九州大学大学院）
3. 「NGO の活動がコミュニティ形成に及ぼす影響についての考察——地方都市における『エイズ NGO』の事例から」
井上 智史（九州大学大学院）
4. 「病への“対策”はいかに規定されるのか——HTLV-1 対策推進協議会議事録の分析から」
桑畑 洋一郎（梅光学院大学）

= Coffee Break(10 分) =

自由報告部会 II (16:15～18:15)

1. 「伴走型生活困窮<世帯>支援とコミュニティ形成」
稲月 正（北九州市立大学）
2. 「『オキナワ型雇用社会』に参入する若者たち——聞き取り調査を中心に」
上原 健太郎（大阪市立大学）
3. 「在日コリアン寺院の持続と変容——ニューカマー韓国人僧侶の活動に注目して」
吉田 全宏（大阪市立大学大学院）
4. 「社会学の理論と『自然』」
室井 研二（名古屋大学）

懇親会 18:30～ 本館地下 1 階パーラー 会費有職者 4000 円、有職者以外 2500 円

12 月 18 日(日)

自由報告部会 III (9:50～11:50)

1. 「地方都市における老人クラブリーダーの意識」
張 乾坤（九州大学大学院）
2. 「地方都市におけるシルバー人材センター会員の意識」
焦 曉蕾（九州大学大学院）

= Coffee Break(10 分) =

3. 「韓国におけるヤングケアラーの実態——家族ケアを担う子ども」
左 賢彬（九州大学大学院）
4. 「訪問介護ヘルパーの生活と意識」
加来 和典（下関市立大学）

閉 会 12:00